令和７年度学校評価表

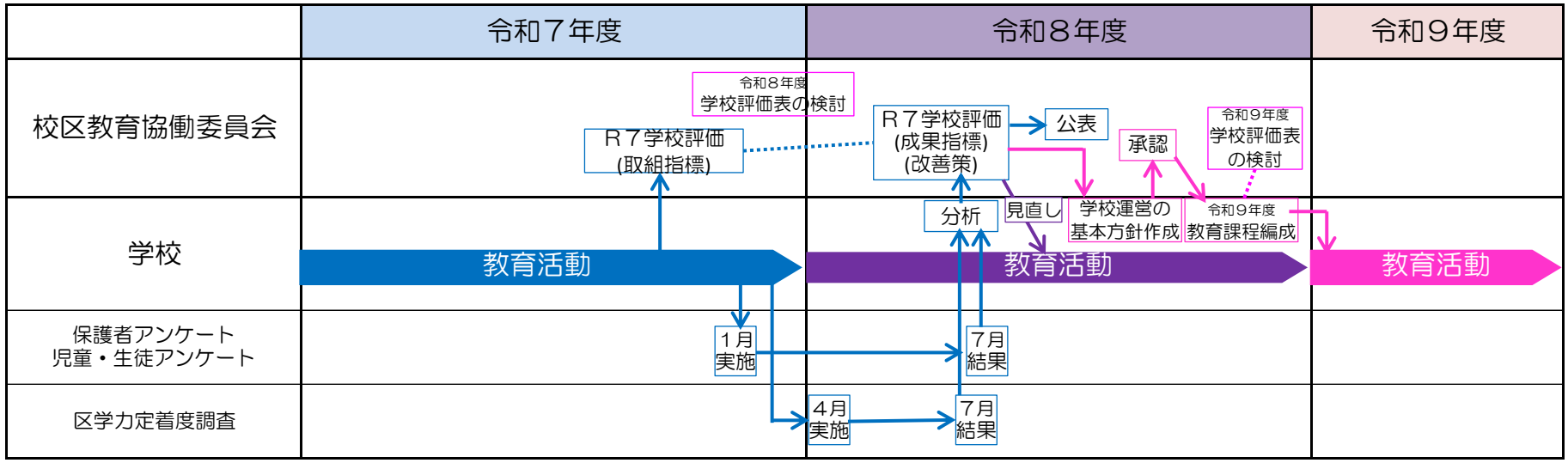
品川区立荏原第五中学校	校長	伊藤	恵造
荏原第五中学校校区教育協働委員会	委員長	鞍馬	裕美

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正　令和5年３月２４日 教育長決定 要綱第５号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

⑴ 学力に関すること。
⑵ 人間性や社会性に関すること。
⑶ 体力・健康に関すること。
⑷ いじめ防止の取組に関すること。
⑸ 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和７年度の学校評価が令和８年度および令和９年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和７年度　学校評価　品川区立荏原第五中学校

評価項目１　学力に関すること

重点目標	〇9年間の義務教育において、①基礎的・基本的な知識や技能の習得、②知識や技能を活用した課題解決に必要な思考力、表現力の習得、③主体的に学習に取り組む態度の育成、④多様な人々と協働する態度の育成に努める。 ・旗台、源氏前、清水台各小学校と「自ら学び、自ら行動する児童・生徒の主体的な学びを促し、探究的に学ぶ力を向上させ、指導の改善を図る。 ・基礎・基本の定着のため、計画的なレディネステストや小テスト・単元確認テストを工夫したり、地域未来塾等を有効に活用する。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	品川区学力定着度調査で、各教科の平均正答率が全国平均以上になる。	8年理科、7年社会、理科が全国平均を下回っている。	B	来年度からは、評価方法の再検討が必要になるが、具体的なポイントを絞って復習をする。
	教師は、生徒の定着状況を把握するために60～65点の平均点に設定した定期考査を作成するとともに、聴覚・視覚どちらの刺激特性をもつ生徒にも理解しやすい授業改善に努めている。	平均点においては、およそ60～65点の幅に収まっている。 視覚・聴覚については、ICTを使って行っている授業が多い。	A	
	教師は、レディネステストや小テスト・単元テストを計画的に実施して生徒の学力定着状況の把握に努め、学習指導等の工夫に生かしている。	英語、数学、理科においては単元ごとに小テスト等を実施している。教科上、難しいものもある。	A	
	教師は、教え合い、話し合い活動を授業に取り入れながら生徒の思考力・判断力・表現力の向上に努めている。	意識的にとりている様子がうかがえる。約8割の生徒が話し合いはできているが、それが思考力等を向上させているかは評価できていない。	B	令和8年度の二学期に重点的に行うことを、教職員で確認した。
②	落ち着いた学習環境・学習習慣により、平日1時間以上家庭学習に取り組む生徒が75%以上になる。	塾も含めて、7年66%、8年64%、9年76%が、学校外で勉強している。	B	自宅学習の習慣については、再度家庭との協力を考える。
	教師は、地域未来塾の活用、学習課題の与え方の工夫、タブレット端末や自主学習帳等の利用で、家庭学習に取り組む意識の向上を図っている。	AIドリルの活用を進めているが、教科ごと、担当者ごとにばらつきがある。未来塾は夏休みに設定。	B	未来塾は集中して行うことができた。来年度も継続する。
	生徒の自己肯定感高揚のため、各種検定試験を奨励し、卒業時に50%の生徒に英検・漢検いずれか3級以上を取得させる。	およそ7割の生徒が取得。	A	

	教師は、小中合同研究で探究に学ぶ力を高め、授業改善ワークショップ等を通して授業改善に生かしている。	探究についての連携は取っているが、ワークショップ等は行えていない。	C	研修等を今後、検討予定。

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立荏原第五中学校

評価項目２　人間性や社会性に関すること

重点目標		○人権尊重の精神を基盤として、社会生活を営む上で大切なことや守るべきことの知識や技術・技能を確実に身に付けさせる。 ・市民科一貫プランとして「人権」「福祉・ボランティア」「将来設計」に重点を置いた指導を計画的に行う。 ・教職員・生徒・保護者相互の信頼関係を基盤とした予防的生活指導、教育相談を実践する。 ・差別や偏見を許さない人権尊重教育を推進し、生徒の自治・自浄能力を高め、自己有用感の高揚を図る。		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	規則やきまりを守って落ち着いた学校生活を送っている生徒が80%になる。	本土の生徒が複数のアンケートで肯定的な回答をしている。	A	
	生徒のプラスの評価を積極的に発信し、教師自らが、挨拶、時間を守る、適切な言葉遣いなどを意識し生徒にも実践させている。	9割以上の生徒が守っていると回答	A	
	学校行事や生徒会活動などを通して、意欲的に取り組む態度を育て、行動力・実践力を身に付けさせている。	多くのボランティアが生徒会中心行われていて、昨年度は参加生徒も多かった。	A	
②	自分の将来像について考えを深め、進路に対して目標を定め努力する生徒が9年生で80%以上になる。	達成している。3学年平均にすると7割程度。	A	
	市民科一貫プランの「将来設計」学習を計画的・系統的に実施して、自らの将来や卒業後の進路に対して考えさせている。	計画的に進めている。学期末にキャリアアップで、振り返り等を行ってもいる。	A	
③	学校の施設・設備を大切に扱い、学習環境が良いと感じている生徒が80%になる。	8割以上の生徒が、良いと回答。	A	報告しやすい環境づくりについても、検討する
	故意・過失に関わらず、破損に対して生徒が教職員に正直に報告できる人間関係が築かれ、修繕等に迅速に対応している。	報告できる回数の方が多いが、出てこないものも一定数ある。	B	
	公共物を大切にすることの意味を適切に指導し、生徒同士で相互に声を掛け合える人間関係が築かれている。	定期的に、学年、学校全体で話をしている。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立荏原第五中学校

評価項目３　体力・健康に関すること

重点目標	○生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培い、自己の体力への認識を高めさせ、体力向上への取組を推進する。また、健康の保持増進に関する基本的な知識・生活習慣を身に付けさせる。 ・品川スポーツトライアルやワンミニッツエクササイズを体育の授業や部活動の準備運動等に取り入れたり、長期休業中の課題として取り組ませることで、調整力・柔軟性・筋力の向上を図る。 ・保健室来室時に自己の生活習慣の問題点を考えさせ、内科的不調の主たる理由となる生活習慣の乱れに気付かせ、改善しようとする態度を育てる。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	8･9年生での東京都体力・運動能力調査のスコア結果を、都平均の下限3ポイント以内とする。	R7の９年男子以外は、ほぼ達成（全国平均）	B	運動が習慣になるよう、授業等で継続がしやすくなるような指導を検討する。
	体育の授業ではテクニカルアドバザーによるダンス単元で、生徒の意欲を引き出し、体を動かすことの楽しさを実感させている。	令和7年度もテクニカルアドバイザーによる指導があり、生徒は意欲的に取り組んでいた。	A	
	基礎体力の維持・向上を目的とした活動を体育の授業を中心に行い、生徒たちに運動習慣がつくように取り組む。	授業では長距離等を取り入れ、計画的に行えている。ただし、習慣化するための手立ては、特になかった。	B	
②	未処置のう歯(むし歯)のある生徒の割合を全国平均(17%)以下とする。あわせて、う歯(むし歯)の治療報告を50%以上とする。	治療報告書の提出率は良くない。ただし、毎年検診でう歯である生徒は25%未満なので、治療はされている様子。	A	
	歯と口の健康ポスター、未処置者・保護者への勧告、食後の歯磨き啓発、学校歯科校医授業等により歯科保健への意識向上を図っている。	夏休みの宿題として、取り組ませた。	A	
③	生活指導部・特別支援教育部を中心に、SC・養護教諭・特別支援教室教員等との連携による相談体制の強化を図る。	生徒支援部会で共有した情報をもとに、支援体制をとれている。	A	
	定例部会の中での生徒情報を学校全体で共有しながら、支援体制の確認、関係機関との連携等を円滑に行っている。	週1回を目安に、連携のための情報共有を行えている。	A	
	保健室利用時に個別のチェックカードを記入させ、自己の生活習慣の問題点に気付かせている。	保健室利用者の記録は取っている。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立荏原第五中学校

評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

重点目標		○「いじめ」は絶対に許されない、許さないという共通認識の下、全教職員と保護者・地域とで一人一人の生徒の言動からいじめの兆候を掴み、未然防止に努めるとともに、事実発生時には迅速な対応をとる。 ・市民科や各教科指導、行事等への取組から内心の醸成を図り、生命尊重の精神、自他を大切にする心、不正を許さない強い態度を育む。 ・命の大切さを理解させ、差別や偏見を許さない人権尊重教育を推進し、生徒の自治・自浄能力を高め、自己有用感の高揚を図る。		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	「いじめ」は重大な人権侵害であるという意識を育て、発生件数をゼロに近づけるとともに、発生時に迅速に解決する。	いじめに対する教職員の意識は非常に高い。ただ、予防のための手立ては、学年ごとに行っているところもあり、計画性にはかけている面もある。	A	いじめに関する投げかけ、指導は継続していく。
	生活アンケートや教育相談、校内巡回、ハーツ等外部機関との連携を通して「いじめ」の早期発見に努め、組織的対応をしている。	毎日のデイケン、年間7回のいじめDアンケートを実施して、サインがあれば早急に対応をしている。	A	
	セーフティ教室、命の教室、防災教育等により命の大切さを理解させ、人権標語・ポスター、食肉市場講話等の取組を通して、多様性を認め、一切の差別を認めない意識を育	セーフティ教室、命の教室等を実施し、食肉市場講話を実施。差別による問題を意識させている。	A	
②	人権問題に関して理解を深め、自らを律することができるようになったと感じる生徒を80%以上にする。	およそ76%の生徒が、人を傷つけるようなことは言わないよう注意している。人が困っているときには74%の生徒が進んで助けると回答。	A	他者の痛みが分かるような、そんな機会を多く設定して、学ばせていく。
	教師は各自の人権感覚を磨き、言語環境を整え、肯定的な声掛けを意識しながら人権尊重教育を推進している。	毎年、いじめに関する研修は行われている。その中に人権意識に関するものが多い。	A	
③	学校全体の活動としていじめに取り組み、いじめの予防と解消を合わせて、未解決のいじめを0にする。	いじめと判定して、未解決のまま（継続している）にしたものはない。当事者の指導は必ず行っている。	A	
	学校は、いじめに対して組織的で迅速な対応をする体制をつくり、情報の周知、支援・指導の徹底をしている。	いじめについては、最優先で取り組んでいる。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立荏原第五中学校

公開・非公開の選択

評価項目●　　（特色ある教育活動に関すること）

重点目標				
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	ボランティア活動に参加したことのある生徒の割合が80%以上になる。	達成できている。特に朝の清掃ボランティアはどの学年も出席率が高い。	A	
	生徒会活動の活性化を図ることで、ボランティア活動の理解・参加意欲の強化に努めている。	毎年、生徒会を中心に意欲的に取り組んでいる。	A	
②	目的意識をもち、自立できたと感じる生徒の割合が80%以上になる。	他人と違っても、自分の意見が言える、という生徒が87%	A	
	市民科学習、学校行事、生徒会活動等を通して、企画・運営に関わらせる工夫を行い生徒に達成感をもたせている。	学校行事の運営面での取り組みを、上手く使っている。	A	
③	中学校生活の中で、自分が心身ともに成長したと感じる場面を多く設定して、誰もが成長を実感できるようにする。	9年生で72%の生徒が成長を感じている。	A	成長を積極的に見つけて、伝えることで肯定感を上げていく。
	教師が意識的に肯定的な声掛けを実践し、授業、行事、委員会活動等で発表、表現する場を意識的に取り入れ、寛容さと自信を身に付けさせる工夫を行っている。	小さい変化を見つけては、上手に声をかけている。自分には自信が持てるものがあると思っている9年生は74%になる。寛容さについては、測定できていない。	B	寛容さについて考える機会を市民科で取り入れられるような検討を行う。

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成